

事例5 概念的な枠組みを用いて考察したり構想したりする事例（主権者教育の充実）

○学年 第3学年

○主な領域（公民的分野） C 私たちと政治 (2) 民主政治と政治参加

○事例のポイント

- ① 子供たちが政治や社会のことに興味を持ち、それを「自分のこと」として考えた上で主体的に政治に参加する態度を養えるようにする。
- ② 問題解決的な学習を充実させることで、生徒に「効率や公正」といった概念的な枠組みを用いて考察する力を身に付けることができるようにする。
- ③ ICT端末のデータ共有機能を活用することで、対話的な学びの活性化を図る。

1 小单元名 「地方自治と私たち」（8時間）

2 小单元について（略）

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・ 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。
- ・ 効率と公正などに着目して民主政治の推進などについて多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・ 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	・ 効率と公正などに着目して民主政治の推進などについて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・ 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 小单元の指導計画・評価計画（8時間）

●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元を貫く問い 社会をよりよいものとするために、どのように「自分のこと」として政治に関わっていけばよいのだろうか </div>				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題 地方自治はどのような仕組みで行われているのだろうか </div>				

<p>第一次 単元の導入 (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と地方自治 地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれる理由について考えることを通して、地方自治の意義について理解する。 地方財政の仕組みと課題 地方公共団体が抱えている財政上の課題について調べる。 地方公共団体の財源とその使い道について、統計資料をもとに理解する。 	<p>○</p>	<p>●</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地方公共団体の仕事や地方分権の考え方について理解し、その知識を身につけている。(学習プリント) ●地方公共団体と国のしくみの違いを比較し、違いを見つけることができる。(学習プリント) ●地方財政の歳入と歳出、地方財政の課題について、統計資料を基に的確に読み取っている。(発表、学習プリント)
<p>第二次 調べる (2時間)</p>	<p>課題 朝霞市はどのようなまちづくりを目指しているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝霞市の基本データや朝霞市がめざすまちづくりの基本構想を調べる。 資料「第5次朝霞市総合計画概要版」 朝霞市の施政方針を調べる 資料「広報あさか 2022年4月号」 朝霞市の“いま” 朝霞市の“変化” 朝霞市の“将来” 資料「朝霞市都市計画マスタープラン」 資料「朝霞市の財政令和3年度版」 自分の将来を描いてみることに より、その年齢ごとの街の将来像とリンクさせてみる。 生徒アンケートの実施 「朝霞市市民意識調査」に即した内容とすることで、自分たちの考えと比較しやすいようにする。 Google フォームを用いて集計する。 	<p>○</p>	<p>●</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●朝霞市のめざすまちづくりの方針を資料から読み取ることができる。(学習プリント) ●朝霞市の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気付いている。(観察、学習プリント)

編 P50 指導計画作成の留意事項(2)(6)

事例のポイント①
子供たち主体的に政治に参加する態度を養うため、政治や社会のことに関心を持ち、それを「自分のこと」として考えるようにする。

事例のポイント③
I C T 端末のデータ共有機能を活用する。

<p>第三次 課題を見出す (2時間)</p>	<p>課題 朝霞市にどのような課題があり、何が必要なのだろうか</p>	<p>●</p>	<p>●アンケートの結果から、朝霞市の課題を多面的・多角的に捉えることができる。(グループ活動、学習プリント)</p> <p>編P50 指導計画作成の留意事項(2)(6)</p>	
	<p>・朝霞市の課題を考える 市民意識調査と自分たちのアンケートの比較し、朝霞市の課題を違った目線で多面的・多角的に捉える。 資料「市民意識調査令和元年度」</p> <p>・朝霞市の課題を政策別に考え、課題解決のために何が必要なのかをグループで考える。</p> <p>・政策を考える準備として、政策の方針のキャッチフレーズを考える。 【グループ活動】 考えたものは、Microsoft Teamsで共有する。</p> <p>・5つの政策分野から政策を考える。</p>	<p>事例のポイント① 子どもたちが政治や社会のことに興味をもち、それを「自分のこと」として考えた上で主体的に政治に参加する態度を養えるようにする。</p>		<p>事例のポイント③ ICT端末のデータ共有機能を活用することで、対話的な学びの活性化を図る。</p>
<p>第四次 追究・まとめ (2時間) 本時</p>	<p>課題 より良い朝霞市をつくるために、効率・公正の観点からどのような政策を提案すればよいのだろうか。</p>	<p>○</p>	<p>○よりよい朝霞市をつくるための政策について、多面的・多角的に考察・構想し、自分の意見を積極的に説明し、主体的に社会に関わろうとしている。</p>	
	<p>・朝霞市に対して課題を意識して政策を提案をする。 【グループ活動】</p> <p>事例のポイント② 問題解決的な学習を充実させることで、生徒に概念的な枠組みを用いて考察する。力を身に付けることができるようにする。</p> <p>・政策の発表は、Microsoft Teamsを用いて共有をはかる</p> <p>・Google フォームを用いて政策を評価する。</p> <p>事例のポイント③ ICT端末のデータ共有機能を活用することで、対話的な学びの活性化を図る。</p>	<p>○</p>	<p>○よりよい朝霞市をつくるための政策について、複数の側面や立場から多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	

<p>第四次 追究・まとめ (2時間)</p>	<p style="text-align: center;">編P50 指導計画作成の留意事項(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝霞市に意見を提出する。 ・単元のまとめ 単元の振り返りシートを用いて 単元を振り返る。 	<p>単元を貫く問いの解 (例)</p> <p>【B評価の例】 よりよい社会を作るためには、わたしたち一人一人が「自分のこと」として、地域の課題を知ったり、考えたりすることで主体的に社会に参画しようとするのが大切である。(複数の側面と、複数の立場に立って考察できているか。)</p> <p>【B評価に達しない生徒への支援】 学習プリントを振り返らせ、一つ一つのキーワードを理解させるよう教師が支援を行う。</p>
---------------------------------	---	--

5 本時の学習指導 (7・8 / 8時間)

(1) 目標

- ・よりよい朝霞市をつくるための政策について、多面的・多角的に考察・構想し、自分の意見を積極的に説明する。
- ・よりよい朝霞市をつくるための政策について、複数の側面や立場から多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を適切に表現する。

(2) 展開

学習活動等	指導上の留意点	観点 具体の評価規準
1 朝霞市市制施行 50 周年記念映像を視聴し、市の魅力をつかむ。	・美しい私たちのまちの姿から将来の朝霞市のあるべき姿を考える布石とする。	映像資料 「朝霞市市制施行 50 周年記念映像」
<p>課題 よりよい朝霞市をつくるために、効率・公正の観点からどのような政策を提案すればよいのだろうか</p>		
<p>2 課題を意識して、①～⑤のテーマの中から一つ選び、4人1班として政策を提案する。</p> <p>①災害対策・防犯・市民生活 安心できるまちづくりについて</p> <p>②健康・福祉 子育てや高齢者などが生活しやすいまちづくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班員が考えてきた政策を基に、班で練り上げて提案検討を行わせる。 ・班員が考えてきたテーマから練り上げていく方法と、新たに政策を創り上げていく方法とがあることを指導する。 ・政策を提案する際に、「効率」(効果的で無駄がない)と「公正」(公平で特定の人だけが不利益になっていない、多くの市民が納得する税金の使い方) 	<p>主 よりよい朝霞市をつくるための政策について、多面的・多角的に考察・構想し、自分の意見を積極的に説明し、主体的に社会に</p>

<p>③教育・文化 学校教育やスポーツ・文化について</p> <p>④環境・コミュニティ 環境のよいまちづくりについて</p> <p>⑤都市基盤・産業振興 交通面や産業面からまちづくり</p> <p>・各班で考えた政策は、Microsoft Teams で共有する。</p> <div data-bbox="172 660 614 784" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント③ I C T端末のデータ共有機能を活用することで、対話的な学びの活性化を図る。</p> </div>	<p>の視点を踏まえて話し合うようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策には実現可能性や、予算の裏付けといった、効率・公正等の概念的な枠組みを使って考えるようにさせる。 ・まとめる際は、端的に分かりやすい表現ができるように指導する。 <div data-bbox="885 470 1428 672" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② 問題解決的な学習を充実させることで、生徒に概念的な枠組み（政治・法・経済等）を用いて考察する力を身に付けることができるようにする。</p> </div>	<p>関わろうとしている。（話し合い）</p>
<p>3 各グループ【3分程度】で政策を発表する。政策を発表する際は、I C T端末を用いる。</p> <div data-bbox="164 940 630 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の政策例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算を組み替え子育て世代への補助金を拡充し、給食費を無償化する。 ・国有地を借り受け、大型ショッピングモールを誘致し、地域の活性化を図る。 ・東武東上線朝霞駅に朝夕のラッシュ時にだけ急行を停車させ、中心部への人の流れを活発化させる。 </div> <p>4 各班の政策を聞き、①～③のポイントを、3段階で評価する。評価はGoogle Formsに入力する。</p> <p>5 評価をもとにベスト政策賞を決定する。（最も点数の高いもの）</p> <p>6 本時及び単元のまとめと振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞きながら、参考になる意見があったらメモを取るよう指示する。 ・政策評価の観点は総務省「政策評価に関する標準的ガイドライン」による評価の観点（抜粋したもの）を用いて3段階評価で評価する。また、評価の際に「効率」「公正」の視点も評価する。 <div data-bbox="678 1131 1173 1590" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>政策評価のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ①投入された資源量に見合った効果が得られるか（効率性） ②特定の人だけが不利益になっていない、多くの市民が納得する税金の使い方か（公平性） ③市民や地域が必要とし、他の政策よりも優先的に実施すべきか（必要性・優先性） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実現可能性についても評価の対象とするよう指導する。 ・政策評価のポイントを基に点数を決定させ、後日最も点数の高いものを朝霞市のホームページから提出する。 ・単元を通して、学びを振り返らせる。その際、単元の最初の見通しの際に考えさせた初発の考えと、振り返りのま 	<p>思・判・表</p> <p>よりよい朝霞市をつくるための政策について、複数の側面や立場から多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を適切に表現する。（発表）</p>

	とめとを比較し、考えの変容を捉えさせるようにする。	
<div data-bbox="183 224 1184 441" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ (例)</p> <p>朝霞市の政策を考える際、私たちの夢や希望を踏まえつつも、効率と公正の視点や実現可能性などを考えながら提案することができた。私たちも社会に生きるよりよい市民として社会に参画していきたい。</p> </div>		

6 板書計画

<p>課題 よりよい朝霞市をつくるために、効率・公正の観点からどのような政策を提案すればよいのだろうか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">災害対策 防犯 市民生活</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">健 康 福 祉</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教 育 文 化</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環 境 コミュニティ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">都市基盤 産業振興</div>
<p>政策の重点を考えるポイント</p> <p>①よりよい市をつくるために。最も必要なテーマを選択する。</p> <p>②予算の裏付けなど、実現可能性のある政策を考える。</p> <p>③「効率」（効果的で無駄がない）と「公正」（公平で特定の人だけが不利益になっていない、多くの市民が納得する税金の使い方か）の視点を踏まえて考える。</p>					

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

- ①子供たちが政治や社会のことに関心を持ち、それを「自分のこと」として考えた上で主体的に政治に参加する態度を養えるようにする。

主体的・対話的で深い学びの実現のためには、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とともに、自ら課題を発見し、解決にむけて主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現して実践に生かすことが重要である。生徒の「深い学び」を実現するためには、単元や授業を構想する段階から、育てたい資質・能力を明確にして、その育成のために様々な手立てを準備し、生徒の学習意欲を高め、協働的な学習を促す発問、資料提示、指導の工夫などが必要となる。

選挙権年齢や成年年齢の満 18 歳への引き下げを受け、これまで以上に主権者として必要な資質・能力を確実に身に付けさせいくことが喫緊の課題である。具体的には、国家・社会の基本原則となる法やきまりについての理解や、政治、経済等に関する知識を習得させるのみならず、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力を育成することが重要とされている。

そこで、本単元においては、「自分のこと」を意識させる工夫として、以下の取り組みを行った。

- (ア) 自分の将来像と自分の住む街の将来像を関連付けさせる。

「自分のこと」として政治に関わっていくために、まず将来の自分の姿を想像し、その年代ごとに住む街がどのような街であってほしいか、将来の自分と将来の街の在り方を関連付けて考えることが有効である。

また、「朝霞市市民意識調査」を参考に、同内容のアンケートに生徒に回答させ、実際に市民が回答した結果と自分たちの考えを比較させる。

(イ) 朝霞市の課題を見いだし、課題解決のために必要なことを考える

朝霞市にはどのような課題が存在するのか、アンケート結果からつかむ。

今回は5つの分野から以下の資料を用いて市の課題を見いだした。なお、データは朝霞市と近隣5市、埼玉県の数値の比較である。(出典:第5次朝霞市総合計画後期基本計画)

(1) 災害対策・防犯・市民生活

「人口1千人あたり刑法犯認知件数」

(2) 健康・福祉

「0歳～5歳までの人口1千人あたり待機児童数」、「人口1万人あたりの病院数」

(3) 教育・文化

「教員1人当たりの中学校生徒数」、「人口1万人当たりの図書館数」

(4) 環境・コミュニティ

「空き家率」、「人口1人1日当たりの生活系ごみ排出量」

(5) 都市基盤・産業振興

「都市公園面積」、「にんじんの作付面積の推移」、「観光客入込客数」

生徒が提案した、課題解決に向けた政策は、市の意見メール等に提案することも可能である。授業だけにとどまらず、実際の市政に参画できることは、生徒にとって「自分のこと」として考える大きなきっかけとなるはずである。なお、意見メール等、行政機関と連携して授業を行う際は、事前に市役所の担当部署と緊密に連携をとることも重要である。

②問題解決的な学習を充実させることで、生徒に「効率や公正」といった概念的な枠組みを用いて考察する力を身に付けることができるようにする。

現実に政策を実現する際の財源は税金である。予算の配分には様々な制約があり、政策実現には優先順位付けとその説明責任が求められる。そのため、本単元を学習するにあたり、グループで政策を話し合う場面では、既習事項である「効率的で無駄はないか」という「効率」という視点と、「公平で特定の人だけが不利益になっていないか、多くの市民が納得のいく税金の使い方か」という「公正」の視点を持ちながら、協働的な学習を通して優先される政策を追究し、自分の考えを適切に表現できる態度と能力を育てたい。

また、今回は政策の評価を行う際に、総務省の「政策評価に関する標準的ガイドライン」(平成13年1月)から3観点を抜粋し、その観点を3段階で評価することとした。以下は、総務省のガイドラインに示されている観点である。

■※評価の観点別の一般基準 ※政策評価に関する標準的ガイドラインによる

(ア)「必要性」の観点

- 政策の目的が、国民や社会のニーズに照らして妥当か、上位の目的に照らして妥当か。
- 行政関与の在り方から見て行政が担う必要があるか。

(イ)「効率性」の観点

- 投入された資源量に見合った効果が得られるか、又は実際に得られているか。
- 必要な効果がより少ない資源量で得られるものが他にないか。
- 同一の資源量でより大きな効果が得られるものが他にないか。

(ウ)「有効性」の観点

- 政策の実施により、期待される効果が得られるか、又は実際に得られているか。

(エ)「公平性」の観点

- 政策の目的に照らして、政策の効果の受益や費用の負担が公平に分配されるか、又は実際に分配されているか。

(オ)「優先性」の観点

- 他の政策よりも優先的に実施すべきか。

③ ICT端末のデータ共有機能を活用することで、対話的な学びの活性化を図る。

グループワークでは、全員が参加することがなかなか難しい場面がある。個人個人によって自分の考えを発信する力は異なり、苦手としている生徒もいるからである。また、活発に話し合っているがそこに深まりが見られないなどの課題もある。活発な話合いの姿は見せないが、人の意見をよく聞いて自己の学びを構成していく潜在的対話的な学びが実現している生徒もいる。対話的な学びをリードし自信をもっている生徒もおり、このように様々な生徒が混在している中で、ICT端末が有効となる場面がある。例えば、生徒のICT端末のデータ共有機能を使うことにより、顕在的に話し合わなくても、各自が考えていることを互いに見ることが可能になる。また、教員も個々の生徒の思考を見取ることができ、潜在的な活発に学んでいる生徒の意見を取り上げることも可能となる。

意見の集約を行う際には、いかにスムーズに共有化ができるかが大切になる。今回は共有機能を有するアプリケーションとして、Microsoft Teams および、Google フォームを用いた。

■アンケートの集計…Google Forms を使用

回答を集約したスプレッドシートは共有も可能なため、いつでも他者の意見を共有することができる。

■政策の発表…Microsoft Teams に投稿

文書作成ソフトを用いて簡易的にまとめ、コラボレーションプラットフォームを用いて投稿することにより、情報の共有化が容易になる。

■政策の評価…Google Forms を使用

表計算により集計も簡易であり、すぐに生徒全員と共有することができる。

なお、Microsoft Forms も同機能のため、代用も可能である。



(2) 実践にあたっての留意点

- ・本単元の実施にあたり、市の担当者に出前授業や政策評価を依頼することも考えられる。また、作成した政策を実際に市に提案するような取組を行うと生徒もより真剣味をもって、実現可能性についても考えながら政策立案に取り組むことができる。市町村だけでなく、埼玉県でも県知事への手紙など、政策を提案する方策がある。

このように行政機関と連携する際には、事前に担当者と連絡をとり十分に協議をすることで、有効な取組とすることができる。